

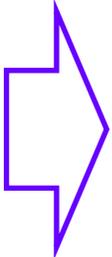
学校における社会的・職業的自立に向けた取組について



キャリア教育の必要性

若者の雇用を取り巻く深刻な状況

- 企業側の不十分な情報発信や学生側の根強い大企業志向等により、企業と学生との間でミスマッチが発生。また、バブル崩壊後の低迷やリーマンショックを受けて、若者にとって良好な雇用機会が減少。学生の職業意識の不足も相まって、近年、**大学等の高等教育機関を卒業した者のうち、進学せず未就職又は一時的な仕事に就いている者(フリーター・若年無業者)**は年間10万人超。
- 就職活動の早期化・長期化は、学生にとって大きな負担。十分な学習時間の確保の妨げや海外留学の阻害要因ともなっている。
- 教育資金の問題や企業ニーズに合ったプログラムが大学等がないといった問題により、社会人となった若者が転職や昇進のために大学等で学び直しを行うことを断念している状況も見受けられる。



若者に安定的な雇用機会を提供するとともに、グローバル化や少子高齢化が進展する中で「世界に勝てる若者」、「地域を元気にする若者」として活躍できるようにするため、**就活システムの見直し**や**社会人の学び直し支援**などの関係施策の実施と併せて、**学校におけるキャリア教育を一層充実させることが必要**。

(若者・女性が能力を伸ばし、十分にその力を発揮し、活躍できるようにすることは、成長戦略の中核)

平成18年の教育基本法改正においても、**教育の目標の一つとして、「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと」**を規定。

キャリア教育の課題と方向性

キャリア教育の定義

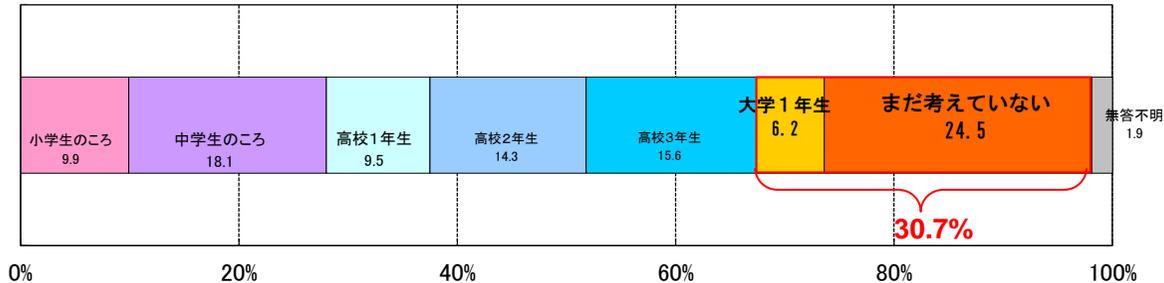
社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア※発達を促す教育

(※キャリア・・・人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね)

背景・課題

進路意識や目的意識が希薄なまま進学する傾向。また、勤労観・職業観の形成等に効果的であるインターンシップについては、学校単位の実施率は増加しているが、個人単位の参加率に課題。

大学1年生が職業を意識した時期



⇒ 約3割が大学卒業後の就業を意識することなく大学へ進学

出典: Benesse教育研究開発センター「平成17年度 経済産業省委託調査進路選択に関する振り返り調査—大学生を対象として」

職場体験・インターンシップの実施状況

	H16年度	H20年度	H24年度
公立中学校	89.7%	96.5%	98.0%
公立高校 (普通科)	45.1%	63.6%	80.2%
公立高校 (職業に関する学科)	81.2%	91.7%	93.9%
	50.0%	63.0%	65.0%

	H15年度	H19年度	H23年度
大学	55.0%	67.7%	70.5%
	1.4%	1.8%	2.2%

⇒ 特に、高等学校普通科や大学におけるインターンシップの個人単位の参加率は低い。

※中学: 学校としての実施率

※高校: 上段は学校としての実施率、下段は生徒の参加率(全日制)

※大学: 上段は大学実施率、下段は学生参加率(学部生のみ)

単位認定を行う授業科目として実施されているインターンシップが対象。ただし、教育実習・医療実習・看護実習等特定の資格取得を目的として実施するものは除外している。

幼児期の教育から高等教育まで、発達の段階に応じ体系的に実施

様々な教育活動を通じ、基礎的・汎用的能力を中心に育成

・各学校段階におけるキャリア推進の主なポイント

小学校

働くことの大切さの理解、興味・関心の幅の拡大等、社会性、自主性・自律性、関心・意欲等を養う

中学校

社会における自らの役割や将来の生き方、働き方等を考えさせ、目標を立てて計画的に取り組む態度を育成し、進路の選択決定に導く

後期中等教育

生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度を育成し、これを通じて勤労観・職業観等の価値観を自ら形成・確立する

高等教育

学校から社会・職業への移行を見据えて、自らの視野を広げ、進路を具体化し、それまでに育成した社会的・職業的自立に必要な能力や態度を伸張・深化させる取組を教育課程の内外での学習や活動を通じ充実

文部科学省における主な取組

※金額は平成26年度予算額

学校のキャリア教育実践の促進

- 教職員向けの指導資料(小・中・高)の作成・配付(平成21～23年度)、研修用動画の配信(H24.1～)
- 学校関係者へキャリア教育の意義や取組方法を説明する「キャリア教育推進アシストキャラバン」の実施
- 高等学校普通科におけるキャリア教育の実践に関する調査研究(400万円)【継続】
- 男女共同参画社会の実現の加速に向けた学習機会充実事業(1300万円)【継続】

学校と地域・社会や産業界との連携によるキャリア教育の推進

- 高校におけるインターンシップコーディネーターの配置(1200万円)【新規】
- 地域キャリア教育支援協議会設置促進事業(3000万円)【継続】
- 学校関係者と企業等が優れた取組事例を共有する「キャリア教育推進連携シンポジウム」の開催(文科省・厚労省・経産省合同開催)
- 「学校が望む支援」と「地域・産業界等が提供できる支援」を紹介する「子どもと社会の架け橋となるポータルサイト」の開設・運用(H24.8～)
- 障害のある生徒への「キャリア教育・就労支援等の充実事業」(3億1900万円)【新規】

教育課程の内外を通じて社会的・職業的自立に取り組むための体制整備

- 大学設置基準・短期大学設置基準の改正(H23.4施行)
- 「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」の見直し(H26.4文部科学省、厚生労働省、経済産業省)
- 産業界のニーズに対応した教育改善・充实体制整備事業(18億6500万円)【継続】

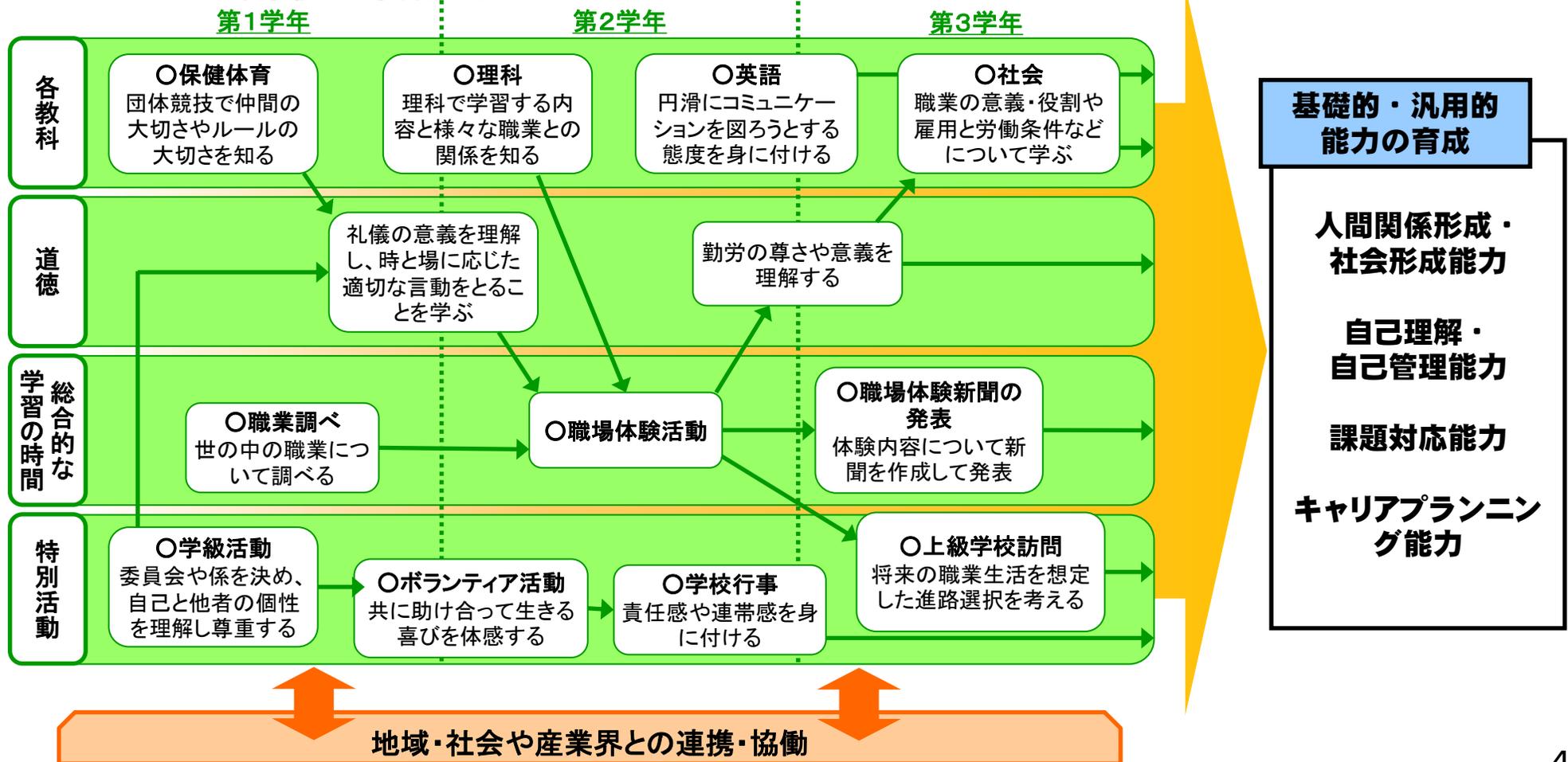
社会人・職業人として自立した人材を育てることにより、少子高齢化を乗り越え、社会の活力を維持向上させていく。

キャリア教育の推進には、各学校段階にわたる体系的・系統的な実践とともに、地域・社会や産業界との連携が不可欠。学校と地域・社会や産業界との連携の取組として、インターンシップの更なる充実が求められている。

初等中等教育におけるキャリア教育の取組例

- 職場体験・インターンシップなどの体験的な学習を効果的に活用し、地域・社会や産業界と連携しながら、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動など学校の教育活動全体を通じて、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力・態度を育成。
- 学校における教育活動の一つ一つを、基礎的・汎用的能力の育成の観点から体系的・系統的に再構成・実行することにより、児童生徒のキャリア発達を促す。

<中学校での実践のイメージ>

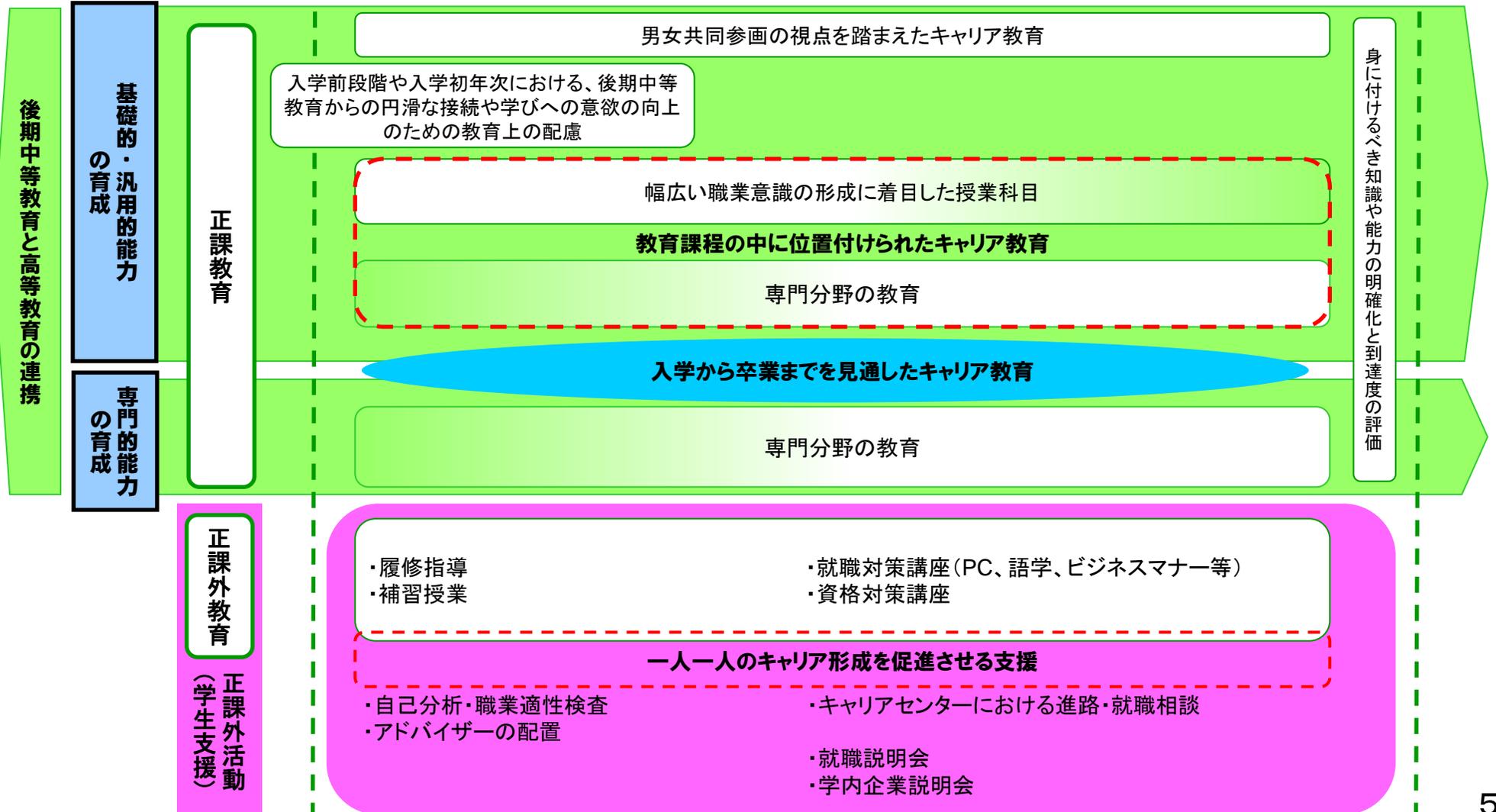


高等教育におけるキャリア教育の取組例

- 学校から社会・職業への移行を見据えて、自らの視野を広げ、進路を具体化し、それまでに育成した社会的・職業的自立に必要な能力や態度を伸張・深化させる取組を教育課程の内外での学習や活動を通じ、**それぞれの学校が地域との連携も含め主体的に実施。**

入学

卒業



地域におけるキャリア教育を支援する協議会の事例

県単位でキャリア教育を支援する仕組みを構築

兵庫県「トライやるウィーク」

- ねらい:
地域や自然の中で、生徒の主体性を尊重した様々な活動や体験を通して、豊かな感性や創造性などを自ら高めたり、自分なりの生き方を見つけることができるよう支援する
- 実施対象:
県内公立中学校、特別支援学校中等部・中等教育学校2年生全員
※平成24年度実績:366校 49,514名 15年間:のべ757,428名
- 実施時期:
6月または11月を中心とした1週間
※6月を中心に実施:64.2% 11月を中心に実施35.8%
- 実施内容:
・職場体験活動 ・農林水産活動 ・文化・芸術創作体験活動
・ボランティア・福祉体験活動 等の社会体験活動
- 活動場所数:
平成24年度実績:17,312ヶ所 (生徒2,9名に1ヶ所)
※15年間:のべ242,396ヶ所
- 指導ボランティア数:
平成24年度実績22,855名 (生徒2,2名につき1名)
※15年間:のべ322,865名

○推進体制

兵庫県「トライやる・ウィーク」推進協議会

知事、教育長その他、経営者協会
漁業・農業・森林組合等受入協力
51団体代表で構成(年1回開催)

市町「トライやる・ウィーク」推進協議会

教育長、連合PTA、校園長、教職員
受入協力団体等で構成
(年2回程度開催)

校区推進委員会

学校長、PTA、地域団体代表
指導ボランティア代表等で構成
(適宜開催)

インターンシップ・体験活動の例

普通科において将来を見据えたキャリア教育に取り組む高等学校

にらやま

静岡県立韮山高等学校

- ほぼ100%の生徒が四年制大学に進学し、うち約半数が国公立大学に進学する進学校として、キャリア教育を実践。
- 高校生活の意義と自分の未来を「つなげる」ことを目指し、**キャリア教育の中心にインターンシップなどの体験活動を位置付け、職業観の育成や、学習意欲の向上、進路意識の向上を図っている。**

<取組の例>

○1年次

- ・**職業レクチャー**： 各界で活躍する卒業生を講師として、仕事内容・自己実現・社会貢献などについて講話を聴く。
- ・**インターンシップ・ジョブインタビュー**： 全員がインターンシップ又はジョブインタビューのいずれかを体験。主なインターンシップ先は、研究所、病院、銀行、放送局、広告代理店、司法書士事務所などであり、地域からの協力を得て実施。
- ・**キャリア教育学年発表会**： 学年集会で生徒が自分のインターンシップ体験について発表。教員は、現代の職業の特徴や、大学の学部・学科と職業の結び付きについて講義し、生徒の体験を職業観や普段の学校生活と結び付ける指導を実施。

○2年次

- ・**オープンキャンパス**： 全員が夏季休業中にオープンキャンパスに参加し、レポートを提出。
- ・**大学レクチャー**： 全員が希望する大学教員の講義を選択して聴き、大学・学部学科選択の一助とする。

大学等と企業が連携して行うインターンシップ等の取組

湘北短期大学(短期・長期インターンシップ)

夏・春期休暇中に、短期(1~2週間)(1単位)及び長期(3~4週間)(2単位)プログラムを提供。事前学習授業「インターンシップリテラシー」(1単位)として、事前準備を行う。また、前年度、実習を体験した2年生が「インターンシップアシスタント」として1年生を指導する活動のほか、インターンシップセンターに専任職員のオフィスコーディネーターが常駐し、学生及び受入れ先企業・団体をサポートしている。



企業でのインターンシップ風景【湘北短期大学】

京都産業大学(PBL:Project-Based Learning)

授業科目「企業人と学生のハイブリット」として、企業と大学が協働し、若手社員と学生のハイブリット(Hybrid: 混成)による人材育成プログラムを提供する。そこで、企業の若手社員が自ら携わっている職務上の課題を設定し、若手社員1名+学生3名のプロジェクトチームで、課題への対応策を検討、提示する。



グループワーク風景【京都産業大学】